

【添付書類①】（日本N G O連携無償資金協力完了報告書）

事業内容、事業の効果に関する写真

① 生徒（トレーナー）のトレーニングと保健委員会の設立・活性化

学校保健委員会の生徒たちにトレーニングを実施した後、保健委員会による自主的な活動に対し、定期的なフォローアップとサポートを行いました。



（学校保健委員会の生徒に対するトレーニングの様子）



（保健専門家の神馬征峰氏（中央）と藤屋リカ氏（左から2人目）が学校保健委員会の活動を視察した際の様子。左から1人目と3人目が当団体の駐在スタッフ。）



（保健委員会の生徒たちが、保護者を対象に行った健康診断・健康教育活動の様子）



（保健委員会の生徒たちが、下級生を対象に行った健康教育の様子）



(学校保健委員会の生徒が作成した、手洗いを奨励するポスター)

② 学校教師に対する健康教育に関するトレーニング

学校教師・幼稚園教師に対して救急法や学校環境に関するトレーニングを行った後、定期的に彼らの活動をフォローアップし、教師たちが責任を持って生徒・園児の健康を守れるように指導しました。



(幼稚園教師に対するトレーニングの様子)

③ 学校に対する健康に良い環境づくりの指導

学校環境の事前事後評価を行うとともに、学期を通じて教師と生徒の学校環境改善のための活動について指導することで、健康に良い学校環境づくりを進めました。



(校庭に植物を植える保健委員会の生徒たち)



(トレーニングを受けた学校教師と保健委員会が整備した校内の様子)

④ 学校生徒・幼稚園児に対する健康診断の実施とフォローアップ体制の指導

学校と幼稚園で健康診断を実施し、発見されたケースを専門医に紹介し、学校と親にそのフォローアップを促す活動を行いました。



(小学校での健康診断の様子)



(学校での健康診断のフォローアップ状況を確認する JVC スタッフ)

⑤ 学校生徒、幼稚園児、その母親たちに対する健康教育

学校生徒への健康教育では、手洗いや健康的な食生活の大切さを教えるなど、体や病気に対する関心を高めるように努めました。また、生徒保護者への健康教育では、病気を予防するための食生活や生活習慣、子どもの抱えるストレスへの対処方法を教えました。



(小学校での健康教育の様子)



(学校のトイレで手洗いの大切さを教える健康教育の様子)



(学校生徒の母親に対する健康教育の様子)

⑥ 地域の青年に対する救急法トレーニングと、救急委員会の設立

地域青年に救急法講習を実施しました。講習の受講者は、各地でボランティアとして病人や負傷者への救急処置を担うようになりました。



(負傷者搬送のトレーニングを受ける地域青年)



(現場で活動する救急法委員会のメンバー)

⑦ 地域住民に対する健康教育と健康診断の実施

医療サービスへのアクセスが困難な地域で、巡回診療と健康教育を実施しました。



(巡回診療の様子)



（健康をテーマとした人形劇の準備をするサマーキャンプ参加者）